

2021年7月11日(日)／説教者:神谷武宏

説教:「神の義に差別はない」

聖書:ローマの信徒への手紙3:21～31

「神の義」とは何か？ 山上の説教でも「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ 6:33)とイエスは言われた。まず「義」は「義しい事」「正しい状態にある事」を意味する。つまり「神の義」とは、神様と人間との正しい関係性のことを言っている。では、どうやって「神の義」を、神との正しい関係性を得ることが出来るのか？

この神との関係性、神の義を求めて多くの宗教が苦勞を重ねている。沖縄の祖先崇拝でいえば、祖先崇拝というよりもユタ事というほうが良いかもしれないが、何か自分や家族に不幸があると「うがんぶすく(拝み不足)」と言われるわけで、それは神との関係性が悪いからあっち行って拝み、こっち行って拝みということを繰り返す。沖縄中を一回りするぐらい拝み歩くことをするわけだが、…そういう努力をして、やっと神との関係性、神の義が良くなると見る。しかしまた、不幸が起こると「ハイ、うがんぶすく」となって沖縄中を今度は逆から拝み歩く…。

これは沖縄のユタ事に限らず、様々な宗教に見られること。四国には八十八箇所巡りというのがあり 1400 キロも旅をする。これはもうさうとう時間とお金をかけなければ回れない距離である。人間は、何か不幸があると神との関係性がおかしいからということで、努力に努力を重ねるという行為に走るのが常。それは、ユダヤ人もまさにそうであった。律法を厳しく守ることが、神の義を得ることだと思い込んでいた。

それに対してパウロは“そうではないんだよ”ということを教えている。パウロは「すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」神の恵み、栄光とは、私たちが努力して、沖縄中を歩き回ったり、八十八箇所 1400 キロもの巡礼をしなくても、神の方から…、私たちが、イエス・キリストを信じる信仰によって、ただ神の憐れみによって、神の義が、神との関係性が豊かにされるということである。この神の一方的な愛に気づかされる時に、自分自身の小ささを覚え、罪の悔い改めと感謝が湧いて来る者ではないか。(神谷)